

伊野バージョン9年目

新たなバージョンを考える学生たち

「伊野の自然を舞台に子どもの遊びをつくらう」。二〇一三年、島根大学教育学部一年生の山形祐貴さんらの提案で始まった「伊野バージョン」が9年目を迎えた。

「伊野やって未来こい！ネット」教育部会が本格始動したこともあり、今年は遊びイベントが格段に増えた。それに伴い、親同士のつながりが深まり、まちづくりへの関心が高まっている。



島大教育学部学生と伊野コミセンまちづくり部（多久和幸三部長）の協働企画で、十一月二十八日、「伊野リンピック」と題した運動会が開催された。

島大生一六人が企画した様々なゲームに子どもと保護者が心地よい汗をかいた。

企画した学生・中藤聡映さんは、「伊野のことをもっと知る機会をつくりたい。伊野バージョンで使える地区内の資源は何か。伊野バージョンはどのように評価されているか。」などと提案した。一月九日、学生たちと伊野めぐりをしながら、今後の伊野バージョンについて検討することになった。

遊びいっぱい

子育てするなら伊野で



できたあ～！

クリスマスリースとツリー

12月11日、教育部会（山崎啓子部長）が主催したクリスマスグッズ作りに、11家族が参加してリースやツリー作りを楽しんだ。これで、サンタさんを迎える準備完了。

ツリー作りを指導したのは兼折治加さん（三ノ谷町内）。

子どもの可能性を信じて

先日、クリスマスツリーづくりのワークショップを開催させていただきました。

私が行うワークショップでは、なるべく自由に、子供たちの発想を大事にして製作をしております。製作過程で、ある程度の決まりはあるものの、ツリーの高さ、毛糸の太さ、色、装飾品を自分で選び、自分で考えてもらうようにしています。出来上がったものは個性があり、その子らしさも同時に伺える素晴らしい作品たちでした。

出来上がったツリーを見たとき、一つとして同じものはありませんでした。

去年から様々なワークショップを開催させていただき、子供たちの可能性を無限に感じています。

子供たちの自由な発想、可能性が地域づくりのヒントにもなるのではないかと思っています。

兼折 治加